

教 員 個 人 調 書

教 育 研 究 業 績 書

2023 年 5 月 11 日

氏名 椿井 裕樹 ⑩

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
神経系理学療法、運動療法学	脳科学、バランス、転倒予防	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例 ・アクティブラーニング型講義	2014 年 4 月 ～	・反転授業を導入し、自己学習する機会を設けた。
2 作成した教科書、教材 ・講義用スライドの作成 ・小テストの作成	2014 年 4 月 ～ 2010 年 4 月 ～	・数冊の教科書や各種ガイドラインをベースに、脳血管障害の理学療法のスライドを作成し、視覚的に理解しやすい工夫をしている。 ・小テストを作成し、習熟度の確認を行っている。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての 特記事項	2007 年 6 月～ 2009 年 10 月 2008 年 4 月～ 2009 年 3 月 2009 年 4 月～ 2009 年 10 月 2011 年 4 月～ 2015 年 3 月 2014 年 4 月～ 2015 年 3 月 2022 年 7 月～ 2023 年 3 月	第 44 回全国学術研修大会 in 三重 準備委員 第 20 回三重県理学療法学会 準備委員 国立大学法人リハビリテーションコ・メディカル学術大会 運営局長 三重県理学療法士会 社会局部員 三重県理学療法士会 社会局 厚生部長 第 33 回三重県理学療法学会 準備委員長 座長（教育管理）
5 その他		
職 務 上 の 実 績 に 関 する 事 項		
事項	年月日	概 要
1 資格、免許 理学療法士	2005 年 4 月 12 日	厚生労働省
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての 特記事項		

4 その他			
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項			
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
(著書) 【これが脳神経外科看護だ!】リハビリテーション	共著	2007 年	Brain Nursing23 巻 5 号 Page462-470
			脳神経外科領域の早期リハビリテーションについて記した。また呼吸器系合併症の予防やポジショニングを中心にまとめた。
(学術論文) 1. アーチ高率の相違が片脚立位時の筋活動に及ぼす影響について)	共著	2021 年 4 月	ユマニテク 短期大学紀要第 4 号: 117-131
			アーチ高率の違いにより、low arch 群 high arch 群の 2 群間に分け、安静立位での下肢アライメント、関節可動域、片脚立位時の筋活動の関係性について検討した。すべての評価項目に有意差は認められなかった。片脚立位時のアーチ高率を基準に low arch 群 high arch 群の 2 群間に分け検討したところ、leg heel angle のみ有意差がみられた。アーチ高率からアライメントを予測することは困難であった。また、各群の非荷重位から安静立位となった際に、アーチ高率の変化が大きい高変化率群と変化が小さい低変化率群における筋活動は似通っていた。そのため、今後はアーチ高率の変化の程度による筋活動の検討が必要であると考えられる。
(その他) 1. 右側頭頭頂葉梗塞後に発話面と書字面で乖離を生じた失語の 1 例	共著	2010 年	第 31 回国立大学法人リハビリテーションコ・メディカル学術大会誌 Page31-34
2. 内転強直の変形性股関節症に対し人工股関節全置換術を施行した一症例	共著	2010 年	第 20 回三重県理学療法学会 Page16-17
3. MIS-TKA 超早期における筋力・ROM・疼痛の推移について	共著	2009 年	理学療法学 (0289-3770)36 巻 Suppl.2 Page1523
4. 当院における THA クリニカルパス改訂に伴う T 字杖歩行可能時期の変	共著	2009 年	三重県理学療法学会 (1880-9561)20 回

化について			Page36-37	
5. 正常圧水頭症に対する タッブテスト、シャント 術前後の歩行能力	共著	2006 年	東海北陸理学療法 学 術 大 会 誌 (1348-7493)22 回 Page64	
6. 最小侵襲人工膝関節置 換術後の歩行能力	共著	2006 年	三重県理学療法 学 会 (1880-9561)17 回 Page18-19	
7. 大腿骨頭壊死症に対す る大腿骨表面置換術後の 理学療法の経験	共著	2006 年	理 学 療 法 学 (0289-3770)33 卷 Suppl.2 Page80(2006.04)	
8. Japanese Undergraduates' Reticence toward Dialectic Pedagogy: Reasons and Remedies.	共著	2013 年	The Fifth Annual Asian Conference on Education, in Osaka,Japan	